

－開催抄録－

パブリックデザインセミナー（第5回）：セミナーテーマ・安全

『生活の中の安全な道路とは 一歩車共存は可能かー』

4月26日、日本大学理工学部 駿河台キャンパス1号館132号室にて開催されました

パブリックデザインセミナー（第5回）：セミナーテーマ・安全『生活の中の安全な道路とは 一歩車共存は可能かー』は、2017年4月26日（水）午後6時より日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館132号室にて開催されました。

セミナーに先立ち、谷口雅彦副理事長（株式会社環境研究所 取締役）が挨拶に立ち、「PDC 活動の柱の一つとして、利用・安全・快適をテーマにセミナーを行ってきましたが、今回は『安全』です。公共空間の制度や基準を踏まえ、パブリックデザインのあり方を考える場として、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。」と述べました。

今回は、PDCが検討の対象としている『道路』の安全に関する考察をより深めるため、『道路の移動等円滑化整備ガイドライン』の編集にも携わられた埼玉大学大学院理工学研究科で教鞭をとられている久保田尚教授を招き、講演が行われました。



谷口副理事長

● 『生活の中の安全な道路とは 一歩車共存は可能かー』

埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門教授：久保田 尚氏



久保田尚教授

【講師プロフィール】

久保田 尚（くぼた ひさし） 埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門教授。1982年横浜国立大学工学部土木工学科卒業。1984年東京大学大学院工学系研究科都市工学修士課程修了。1988年東京大学大学院工学系研究科都市工学博士課程修了。工学博士。同年より埼玉大学助手。同専任講師、助教授を経て、2005年4月より埼玉大学教授。専門は地区交通計画、都市交通計画で、交通まちづくりの提唱、商店街や住宅地の地区交通計画、観光地の交通問題、交通静穏化のための物理的デバイス（ハンプ、ライジングボラード）、休日交通問題、TDM（交通需要マネジメント）、TDO（交通需要おもてなし）、交通主体の行動・心理と交通計画との関連、交通計画と住民参加、政策支援システムとしての交通シミュレーションシステムの利用、ITS（高度交通情報システム）に関する研究などに取り組んでおられます。

久保田氏からは最初に「Shared Space」についての説明がありました。日本の繁華街で見られる車道にイスとテーブルを置いた例は、一見すると Shared Space のように見えるが根本思想がまったく違う不法占用である。こうした事例を出しながら、生活の中の安全な道路と Shared Space について考えていきたいと述べられました。



（※写真：久保田教授作成の当日レジュメより引用）

歩車共存に触れた法律や制度として、オランダで1976年に制定されたボンエルフやゾーン30、イギリスでのゾーン20が紹介されたのに続き、日本の道路交通法にある歩行者天国に関する説明がありました。これらとはまったく異なる Shared Space は、ほぼすべての交通ルールがなくなっている空間で、規制や信号を頼りにしていると自分の命は守れない、というのが交通コンサルタントの Hans Monderman 氏が提唱するものであると述べられました。



(※写真：久保田教授作成の当日レジュメより引用)

次に、平成28年4月1日に施行された『凸部、狭窄部及び屈曲部の設置に関する技術基準（生活道路における物理的デバイス等検討委員会：国土交通省）』から、技術基準として掲載された「凸部、狭窄部、屈曲部」及び「ハンプ」に関する説明がありました。また、これらの運用実績や社会実験の様子などの紹介も行われ、それぞれ一定の効果があると述べられました。



凸部・狭窄事例



ハンプ事例

続いて、ライジングボラードについて、既に実用されている海外での事例や日本でのソフトライジングボラードを用いた社会実験について説明され、これらの施設により一定の効果があったことも述べられました。

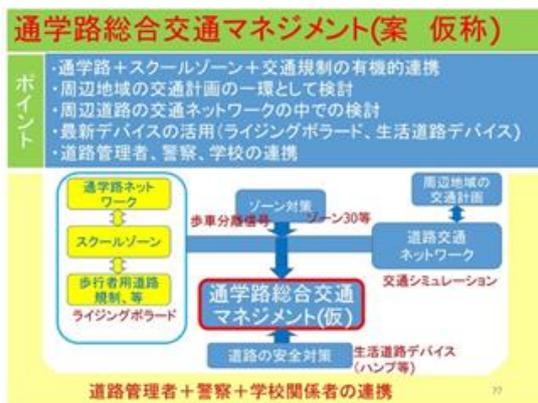


フランス：ストラスブール事例



ライジングボラード事例

最後に、通学路総合交通マネジメントである「通学路 Vision Zero」も始まっていると紹介されました。



● パネルディスカッション

- パネリスト：久保田 尚氏（埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門教授）
 天野 光一氏（日本大学工学部まちづくり工学科 教授）
 須田 武憲氏（㈱G K設計 代表取締役社長）
 中野 竜氏（㈱コトブキ 営業開発室長）
 コーディネーター：富岡 仁計氏（㈱住軽日軽エンジニアリング デザインチーム長）

パネルディスカッションでは、ライジングボラードによる現状の効果と、そこから生まれる可能性について、また、ハンプの効果的な利用法や、今後のShared Space に対する解釈などが議論されました。

また、会場からは「移動の権利」についてどのように考えるかとの質問があり、バリアフリーも含め検討する必要があるとの回答をいただきました。



天野理事長

最後に、天野理事長より「前回セミナーでは土木研究センターの安藤氏よりハード面の話としてガードレールについてご講演いただき、今回は久保田先生にはライジングボラードやハンプなどハードといえども、歩行者を中心とした道路利用を考えるソフト面の話をいただき大変参考になりました。我々は法整備を含め運用を考えなければならないと思います。」とコメントをいただきました。その後、会場を移して懇親会が行われ、更なる議論が尽くされました。